

かけら接合 土器復元

茅野 尖石縄文考古館で体験講座



土器の接合体験を楽しむ親子

茅野市尖石縄文考古館は16日、約5000年前ごろに作られたとみられる本物の土器のかけらを使って接合と復元を体験する講座を同館で開いた。模様や色、厚さなどを頼りにぴたりと合うかけら同士を探し出し、接着剤で接合した。2日間の連続講座で17日は石こうを使って元の形を復元する。

土器のかけらは1986(昭和61)年に国宝土偶「縄文のビーナス」が出土した棚畑遺跡(同市米沢)で見つかったもので約200個。いずれも既に調査を終えている。割れた土器を接合し、見つからない部分に白い石膏で復元した展示品の復元方法に関心を持つ来館者の声をヒントに、体験講座を企画した。

16日の接合体験で参加者たちは、机の上に並んだ土器の

かけらを手に取り、合わせて模様の連続性などを確認。パズルのピースがはまるかのようになりと合うと、笑みを浮かべていた。縄文時代が好きという小学2年生の田中美桜姫さん(8)「川崎市」は両親と3人で挑戦。「土器のかけらが」ぴったりと合うのを見つけた時が楽しかった。図鑑で、古代エジプトを知ったのがきっかけで日本の縄文時代にも興味を持つようになった。茅野には毎年のように「来たい」と話していた。

(野村知秀)